

2018年3月期 第2四半期決算概要

2017年11月10日

千代田化工建設株式会社

目次

1. 決算ハイライト	2
2. 業績概要	3
3. 受注高	4
4. 受注残高	5
5. 損益計算書項目	6
6. 完成工事高	7
7. バランスシート	8
8. 通期業績予想の内訳	9
9. 参考資料(経営指標)	11
10. 経営現況報告	12

1. 決算ハイライト

- ◆ 完成工事高は2Q実績・2,507億円。
通期予想も期首予想(4,300億円)から5,000億円に上方修正。海外LNGプロジェクト(ヤマル、イクシス)の建設工事の進捗による。
- ◆ 当期純利益は2Q実績・35億円を達成。
通期予想も50億円から変更ないが、営業利益、経常利益はそれぞれ95億円、80億円の赤字見込みに下方修正。理由は以下の通り。
 - 米国LNG案件の利益率見直し。
 - ECS社の再建手続き完了により、関係会社事業損失引当金残額を特別利益に計上。
 - 米国LNG案件の主契約者である米国子会社の税金還付。

2. 業績概要

※第2四半期修正

単位:億円

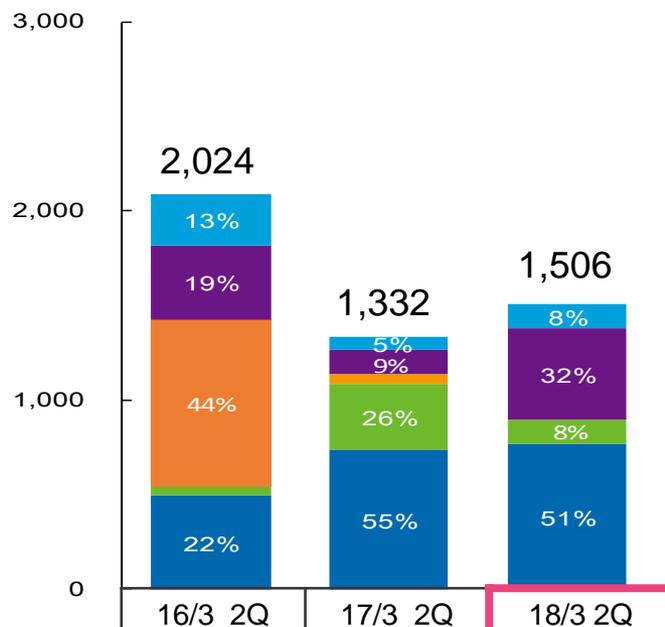
	17年3月期 2Q	18年3月期 2Q	前年 同期比	伸び率
受注高	1,332	1,506	174	13.0%
受注残高	9,055	7,678	△1,377	△15.2%
完成工事高	2,769	2,507	△263	△9.5%
営業利益	46	△131	△177	-
経常利益	103	△124	△226	-
親会社株主に帰属 する四半期純利益	56	35	△21	△38.0%
為替レート	101円/\$	110円/\$		

修正 通期予想	達成率	当初期首 通期予想
3,500	43.0%	3,500
5,000	50.1%	4,300
△95	-	85
△80	-	100
50	69.6%	50
修正想定レート		期首想定レート
110 円/\$		110 円/\$

- 完工高はLNG案件の進捗により、本四半期修正予想の50.1%を達成。
- 経常損失ではあるが、特別利益、子会社税金還付により当期利益を確保。

3. 受注高

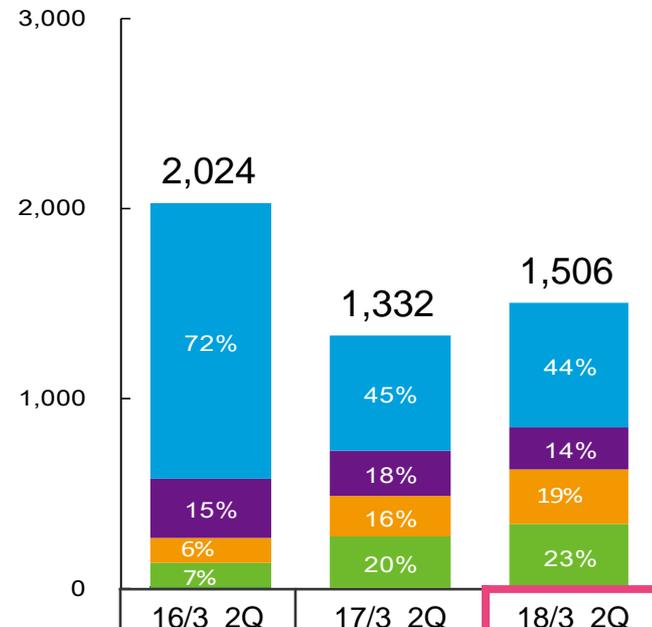
<地域別>



■ 中近東・アフリカ	266	70	128
■ アジア・オセアニア	394	126	483
■ 北中南米	881	50	3
■ その他	45	352	124
海外 合計	1,586	597	739
国内 合計	439	735	768

<分野別>

単位: 億円

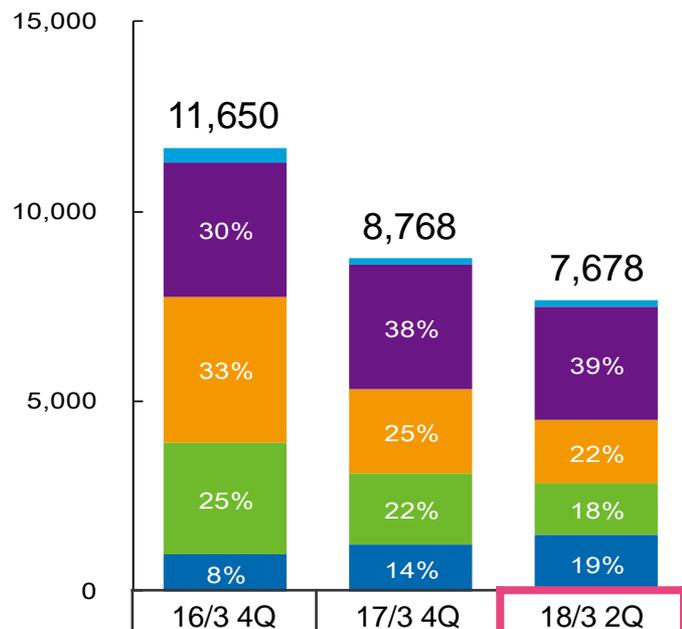


■ LNG・その他ガス	1,446	605	660
■ 石油・石油化学・金属	310	241	216
■ 医薬・生化学・一般化学	131	215	287
■ 環境・新エネ・インフラ・その他	137	271	343

- 地域別: イクス・ヤマルLNGの追加工事、国内メガソーラー案件他。
- 分野別: エネルギー関連受注が過半を占めるも、医薬品プラント・メガソーラー案件も着実に受注。

4. 受注残高

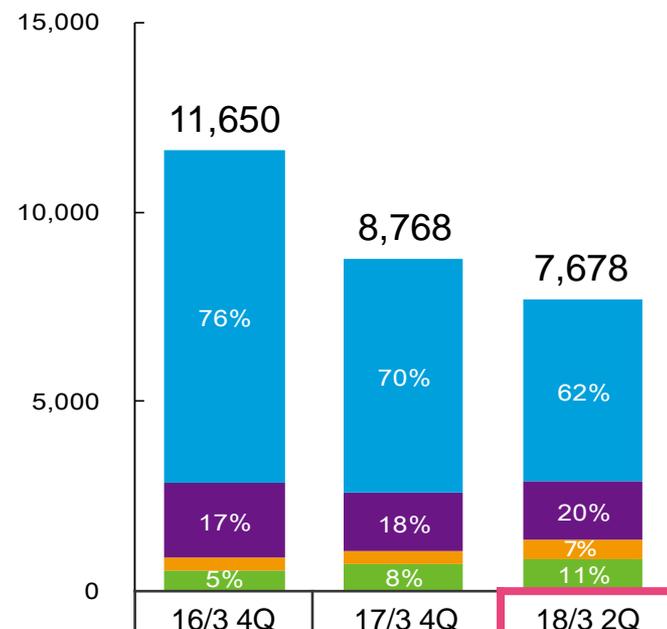
<地域別>



■ 中近東・アフリカ	355	167	196
■ アジア・オセアニア	3,532	3,293	2,993
■ 北中南米	3,835	2,191	1,650
■ その他	2,967	1,897	1,349
海外 合計	10,689	7,548	6,187
国内 合計	961	1,220	1,491

<分野別>

単位: 億円



■ LNG・その他ガス	8,800	6,170	4,795
■ 石油・石油化学・金属	1,986	1,535	1,527
■ 医薬・生化学・一般化学	324	353	515
■ 環境・新エネ・インフラ・その他	539	709	841

● 大型案件の進捗により受注残高は減少。

5. 損益計算書項目

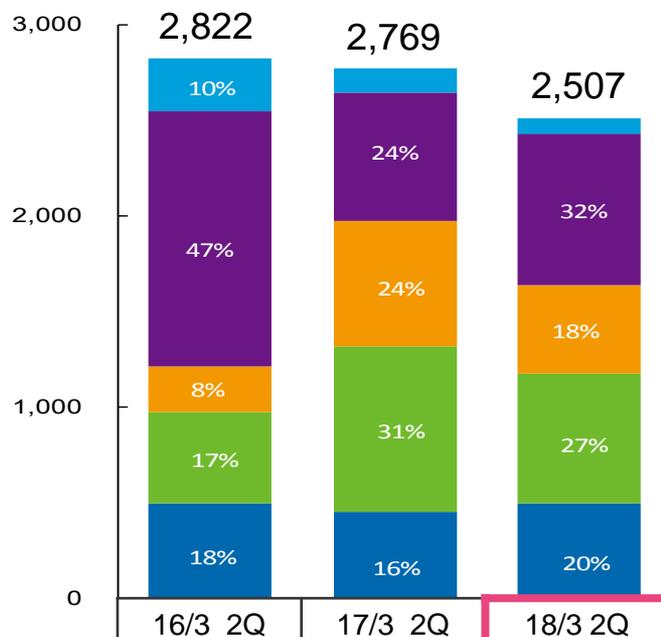
単位: 億円

	17年3月期 2Q	18年3月期 2Q	前年同期比
完成工事高	2,769	2,507	△263
完成工事総利益	151 5.4%	△34 △1.3%	△185 -
販売費及び一般管理費	△105	△97	8
営業利益	46 1.6%	△131 △5.2%	△177 -
営業外損益	57	8	△49
経常利益	103 3.7%	△124 △4.9%	△226 -
特別利益・損失	8	123	115
税金等調整前利益	111	△0	△111
法人税等	△54	36	90
親会社株主に帰属する四半期純利益	56 2.0%	35 1.4%	△21 △0.6pt

- 営業利益、経常利益は赤字計上。特益、子会社税金還付により当期利益を確保。

6. 完成工事高

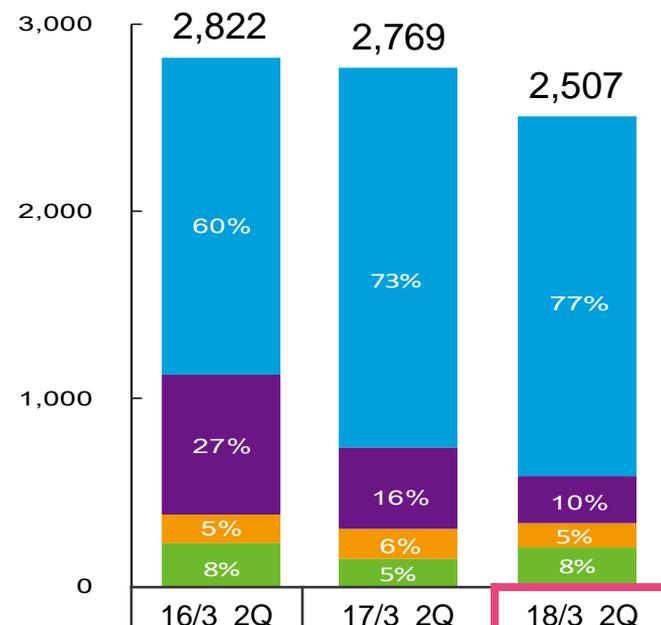
<地域別>



■ 中近東・アフリカ	277	127	81
■ アジア・オセアニア	1,336	666	792
■ 北中南米	235	660	460
■ その他	477	862	678
海外 合計	2,325	2,316	2,011
国内 合計	498	453	496

<分野別>

単位: 億円



■ LNG・その他ガス	1,690	2,032	1,917
■ 石油・石油化学・金属	753	433	257
■ 医薬・生化学・一般化学	151	162	125
■ 環境・新エネ・インフラ・その他	229	143	208

- 地域別: イクシス・ヤマルLNG、国内案件が順調に進捗。
- 分野別: ベトナム、カタールの製油所が昨年度完工したことにより、海外石化案件が減少。

7. バランスシート

単位: 億円

	17年3月末	17年9月末	増減
【流動資産】	4,252	4,116	△137
現金及び預金等 *1	1,434	1,174	△259
営業資産三勘定 *2	841	939	98
JV持分資産 *3	1,643	1,702	59
その他	335	301	△34
【固定資産】	361	464	103
有形固定資産	132	123	△8
無形固定資産	81	74	△7
投資等	148	267	118
【資産】	4,613	4,580	△33

	17年3月末	17年9月末	増減
【流動負債】	3,012	2,966	△46
短期借入金	102	102	0
営業負債三勘定 *4	2,453	2,641	188
工事損失引当金	33	41	8
関係会社事業損失引当金	229	-	△229
その他	195	182	△13
【固定負債】	30	30	△1
長期借入金	0	0	△0
その他	30	30	△0
【純資産】	1,571	1,584	13
【負債・純資産】	4,613	4,580	△33
【自己資本】	1,553	1,566	13
【自己資本比率】	33.7%	34.2%	0.5pt

【注】

- *1 現金及び預金等＝現金預金＋有価証券(譲渡性預金等)
- *2 営業資産三勘定＝受取手形・完成工事未収入金＋未成工事支出金
- *3 JV持分資産＝ジョイントベンチャーにおける当社持分に相当する現預金
- *4 営業負債三勘定＝支払手形・工事未払金＋未成工事受入金

8. 通期業績予想の内訳

※第2四半期修正

単位: 億円

	17年3月期 実績	18年3月期 修正予想	前年同期比
受注高	3,518	3,500	△18
海外	2,213	2,200	△13
国内	1,305	1,300	△5
完成工事高	6,037	5,000	△1,037
海外	5,013	3,900	△1,113
国内	1,024	1,100	76
完成工事総利益	382	110	△272
販売費及び一般管理費	△225	△205	20
営業利益	157	△95	△252
営業外損益	△188	15	203
経常利益	△31	△80	△49
特別損益・税金・ 被支配株主に帰属する当期純利益	△380	130	510
親会社株主に帰属する当期純利益	△411	50	461

参考資料

9. 経営指標

	14年 3月期	15年 3月期	16年 3月期	17年 3月期	18年3月期 予想
完成工事総利益率(%)	9.3	9.5	6.8	6.3	2.2
完成工事高販管費率(%)	4.6	5.0	4.2	3.7	4.1
完成工事高営業利益率(%)	4.7	4.5	2.6	2.6	△1.9
完成工事高経常利益率(%)	5.1	4.6	2.6	△0.5	△1.6
完成工事高当期純利益率(%)	3.0	2.3	0.6	△6.8	1.0
総資産経常利益率<ROA>(%)	5.0	4.5	3.1	△0.6	
自己資本当期純利益率<ROE>(%)	7.0	5.5	1.7	△23.1	
一株当たり当期純利益<EPS>(円)	51.91	42.58	13.03	△158.76	
一株当たり純資産<BPS>(円)	758.31	796.89	772.89	599.83	
自己資本比率(%)	41.3	40.0	37.9	33.7	
流動比率(%)	156.3	151.0	146.3	141.2	
固定比率(%)	33.7	34.5	36.6	23.2	
負債純資産倍率<DER>(倍)	0.06	0.05	0.05	0.07	

経営現況報告

2017年11月10日

千代田化工建設株式会社

目次

1. 事業環境	14
2. 受注実績	15
3. 今後の注力案件	16
4. 中計経営計画の始動	18

1. 事業環境



エネルギー分野

- 原油価格は回復基調
- LNG新規案件は2018年以降、順次FID見込み
- 北米でシェール由来の石油・石油化学案件が活発化



Courtesy of Yamal LNG



地球環境分野

- 再生可能エネルギーの拡大
- 蓄電・蓄エネ技術の進展
- 欧州を中心に新エネルギーへの関心が高まる
- 先端医薬・再生医療の発展



写真提供：日医工株式会社



デジタル技術革新分野

- 電力分野でのAI・Big Data・IoT 活用が加速化
- 他エネルギー、地球環境分野でも推進



2017年 東京電力殿・電力需要予測コンテストに参加
AI技術を活用し、特別賞を受賞

2. 受注実績

2017年度第2四半期 連結受注高実績:1,506億円

エネルギー分野:876億円

- 海外大型LNG案件での追加工事
- 海外LNG・石化資源分野におけるスタディ・FEED
- 国内外の製油所やLNG等の拡張・改造
- コンサルティング・設備診断(国土強靱化)・O&M

地球環境分野:630億円

- 国内 太陽光発電
- 国内 中分子医薬品製造設備
- 国内 環境・産業設備

3. 今後の注力案件（1／2）

エネルギー分野	
取組み方針	注力案件
<p>◆ LNG・ガス</p> <p>以下案件に注力</p> <ul style="list-style-type: none">① 経済性に優れた増設案件② 大型ガス田ベースの案件③ 豊富なLNG実績を持つ顧客案件 <p>当社は上記各種案件で優位なポジションを確保済み</p>	<ul style="list-style-type: none">■ 北米(米国、カナダ)■ モザンビーク■ ロシア■ カタール■ その他
<p>◆ 石油・石油化学・金属</p> <p>差別化が可能、競争環境が比較的限定的な案件に注力</p>	<ul style="list-style-type: none">■ 米国■ インドネシア、シンガポール■ 中東 他

3. 今後の注力案件 (2/2)

地球環境分野

取組み方針

◆ 新エネルギー

エネルギーのグリーン化、蓄電・蓄エネ技術の進展、電源の分散化の動きを捉えたEPC、次世代電力ソリューション事業を追求

◆ ライフサイエンス

再生医療の進展、医薬業界の構造変化を捉えた顧客戦略、ビジネスモデル検討、エンジニアリング技術開発を推進

◆ デジタル革新への対応

当社プラント解析・プロセス技術と提携先AI技術とを融合させたビジネス開発

注力案件

- 太陽光、バイオマス発電
- 蓄電、エネルギーマネジメント事業
- 水素サプライチェーン(横展開)

- 中分子等、成長医薬分野のEPC
- 再生医療拡大・医薬費低減に繋がるエンジニアリング技術、ビジネス開発

- プラント収益性向上・保全を通じたプラント・ライフ・パートナー型のサービスの開発

4. 中期経営計画の始動(1/2)

構造改革

①リスクマネジメント力の更なる強化

②基礎収益力・
下方耐性の強化

③人材層の更なる
拡充

基礎収益とコストのバランス化

◆基礎収益の伸長

- ー国内営業・遂行体制の強化
- ーアセット保有型ビジネスへの取り組み
- ーAI活用を視野にいれたプラント診断サービスの拡大

◆コスト低減

- ーグループ企業の再編(国内・海外)

4. 中期経営計画の始動(2/2)

成長戦略

① エネルギー・バリュー
チェーン事業の構築

② 地球環境エンジニア
リング事業の拡大

③ デジタル社会対応・
新ビジネスモデル
の開発

事業領域の拡大と
ビジネスモデルの変革

- ◆ アップストリーム：
オフショア分野での戦略的取り組みを
開始（中東、豪州、アフリカ他）
- ◆ ミッドストリーム：
多様なLNGへの対応を強化
（北米、中東、アフリカ、ロシア他）
- ◆ ダウンストリーム：
Gas to Powerへの参画を検討
（アジアを中心）

「未来エンジニアリングへの挑戦」



© Chiyoda Corporation 2017, All Rights Reserved.



【お問い合わせ先】

千代田化工建設株式会社
IR・広報・CSR セクション SL 塚本 朋之

〒220-8765 横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
みなとみらいグランドセントラルタワー

TEL. 045-225-7734 FAX. 045-225-4962

URL <https://www.chiyodacorp.com/jp/>

この資料には、2017年11月10日現在の将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。
経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。



© Chiyoda Corporation 2017, All Rights Reserved.

